

2009年(平成21年)4月27日(月曜日)

国際人道支援 高校生考える

アムダ、岡山でセミナー
岡山市の国際医療NGO「AMDA(アムダ)」の高校生向けのセミナーが26日、AMDA本部(岡山市北区檜津)であり、AMD Aのボランティアグループ「高校生会」会員が、なぜ日本が国際協力活動をするのかを考えた。

小池彰和・ボランティアセンター長が「AMDAの国際人道支援活動と相互扶助」と題して講演。「戦後、日本は国連児童基金(ユニセフ)から脱脂粉乳をもらっていた。海外からの援助があったからこそ、今日の本がある」と述べ、「困った時はお互いさま。今、日本が海外を援助するのは当たり前のこと」と国際協力活動をする意義と必要性を強調した。